

美博だより

VOL.

71

飯田市美術博物館ニュース—— 2005. 10. 1

発行●飯田市美術博物館 〒395-0034 長野県飯田市追手町2-655 ☎0265-22-8118 印刷●龍共印刷株式会社



清拙正澄墨蹟 遺偈 神奈川・常盤山文庫蔵

月下の一景

館長 井上 正

仲秋の満月、私の心中には、変色することのない月光の一景がある。

終戦間近の初夏の深夜、丹波の田野で滑走路づくりに従事していた年若い「予科練」の練習生約二百名は突然の集合ラッパで眼をさまされた。分隊長の話は皆に対つて、「わが海軍は新兵器による特攻隊の奇襲作戦を取行する計画を立てており、諸君の中からも要員の志願兵十名を募ることとなった。諸君の忠君愛国の真情に強く期待する」というものであった。これに続いてすぐに「志ある者は一歩前に出よ」という教員(下士官)の勢いをつけた声がとどろいた。

一歩前に出たのは全員であった。前へ出なければ、後刻体罰が下ることは目に見えていた。分隊長はすかさず「諸君の真情はあいわかった。その選抜は本官に一任してもらいたい」と結んだ。

三〇分後に再び集合、十名の名前が読みあげられた。いずれも教員たちに嫌われている反抗心の強い者ばかりであった。月は痛いほどに明るく、この偽装茶番劇の全容を照らし出していた。指名を免れてホツとしている十七才の私の心境にも鋭い光が突き刺さった。

●特別展●

中世信濃の名僧

— 知られざる禅僧たちの営みと造形 —

10月15日(土) ～ 11月23日(水)

伊那谷が古代から交通の要衝として歴史上重きをなしたことはよく知られていますが、中世には、禅僧たちの営みを通じてはるか中国大陸とつながっていました。

鎌倉～室町時代の日本は、久しく他国と正式な外交関係を結ばない立場をとっていたため、外国との交流は民間人の手にゆだねられていました。なかでも禅僧たちは日本と中国の間を盛んに往来し、中国式の禅を忠実に日本へ移植することにつと

め、また幕府の外交ブレンとして政界の表舞台で活躍する禅僧も少なくありませんでした。

このような日中交流は、当時の政治文化の中心であった京都や鎌倉、外交の窓口だった博多でしかみるこ

とができない現象ではなく、信州伊那谷の一寺院を往来した禅僧たちの営みからも伺うことができます。

開善寺は、飯田市上川路にある臨済宗妙心寺派の寺院です。中国からやってきた高僧清拙正澄(大鑑禪師)

一二七四～一三

三九)の開山以来、この寺に住

んだ僧たちは、

幕府や地方御家人と繋がって中

央でも重きをなし、なかには天

与清啓のように

国の使節として、画聖雪舟らを従えて中国に

渡る僧も出てきました。このような人々の活躍によって信濃と中国とが結ばれ、当時最先端の文化であった中国の禅がいち早く信州に輸入されました。

そして日中交流の時代が過ぎて戦

国の世に入ると、今度は隣的美濃(岐阜県)からやって来た臨済宗妙心寺派の僧たちの教線拡大により、開善寺を中心とする信州伊那谷の禅宗は

大きな転換期を迎えました。

今回の展覧会では、禅僧たちの文化交流という視点から、国宝一件、

重要文化財八件を含む絵画・彫刻・墨跡など全国各地から集めた信濃の



重要文化財 陶道明聴松図 天与清啓賛 山梨県立博物館蔵

禅僧ゆかりの六十五件の作品をご紹介します。そしてこの地域では最近クローズアップされることの少ない中世の世界に分け入り、ローカルからグローバルな世界まで自在に往来した知られざる禅僧たちの営みと造形を振り返ります。このうち展示資料の約半数を占める地元の禅宗寺院秘蔵の宝物の大半は寺外初公開となります。

本展覧会が、知られざる禅僧たちの歴史的・文化的意義を見直す機会となれば幸いです。

(織田)

◆特別講演会◆ 午後1時30分
・「淫褻図にこめられた心」
10月30日(日)

赤沢英二氏(東京学芸大学名誉教授)
・「禅僧の日中交流と信濃(仮)」
11月19日(土)

村井章介氏(東京大学大学院人文社会科学系研究科教授)



長野県宝 蘭溪道隆坐像
上伊那郡飯島町・西岸寺蔵

資料紹介

菱田春草筆「高士訪友図」

明治四十二年（一九〇九）

本図は驢馬ろばに乗る高士が、深山の楼閣に住む友人を訪ねようとする情景を描いた作品です。画面は斜めに走る山の稜線によって、大きく三つに分かれており、この山中の奥深さが示されています。また山の陰からは楼閣がその姿をみせていて、そこへ向かおうとする高士の歩みにも、思いを巡らせることができます。

明治四十一年の春、春草は眼病に冒され、療養のために執筆を禁じられてしまいます。この状況は病気が回復する同年末まで続き、その後によくやく執筆が許されました。本図はこの回復後の明治四十二年に描かれたという作品です。

四十二年といえ、春草が秋の文

展に「落葉」

（永青文庫 蔵・重文）を

出品して高い評価を受けた年であり、また春草が琳派風



菱田春草「高士訪友図」
明治42年(1909)

（小島

の装飾的な作風へと進みはじめる時期に当たります。しかし本図の前景の岩塊に見られる斧劈皴ふきげんの筆法などを見ると、眼病以前に描かれた「林和靖」・茨城県近代美術館蔵等に用いられている手法であり、前年の制作スタイルに沿った作品であることがわかります。そのため作品自体も琳派的なものではなく、いうなれば宋元画的な印象を感じさせるものとなっています。

本図は十一月二十七日から開催する平常展示「作品と出会う5 菱田春草『高士訪友図』」に出品いたしますので、この期にじっくりとご覧いただきたいと存じます。

秋季展示

からくさもん

「下伊那唐草文土器」

縄文中期後葉伊那谷南部の地域性

飯田下伊那地方は約一八〇〇箇所
の遺跡がありますが、約六割が縄文
時代中期後葉（約四〇〇〇〜四五〇
〇年前）の遺跡です。全国的に見ても
縄文時代で人口が一番多かったのが
この時期のようです。これは気候が
安定し、豊かな自然環境を背景とし
たことに起因すると考えられます。

「下伊那唐草文土器」は、名前に
こそ下伊那と冠してありますが、そ
の分布は上伊那の大田切川まで及
び、現在の駒ヶ根市以南がその中心
でありました。当地域は日本のほぼ
中心に位置していることもあって、
周辺地域の土器文化が流入して複雑
に絡み合い実に様々な土器が作られ
ました。

下伊那縄文人はこれら周辺地域の
土器文化を巧みに取捨選択し、当地
オリジナルな土器を完成させるとい
った器用な面も見受けられますが、
新しい土器文化が伝えられると、す
ぐにそちらに鞍替えするといった流
されやすい性格も多く見られます。
この様な土器から垣間見える下伊那
縄文人の気質と、現在の下伊那人の

氣質とをオーバーラップさせて展示
をご覧下されば幸いです。（吉川）

◆付属事業◆
秋季展示講座

第1回 10月16日(日)

午後1時30分

「縄文時代中期後葉に於ける関東・山
梨の土器様相」―加曾利E式・曾利
式土器―

講師 今福理恵氏(山梨県考古学協会員)

第2回 11月5日(土)

午後1時30分

「下伊那唐草文土器と現代の下伊那
人氣質」

講師 吉川金利(当館学芸員)

いずれも聴講無料

展示解説会

10月8日(土)・11月12日(土)

午前10時30分〜午後2時



下伊那唐草文土器

美博だより 調査ノート

いつも驚かされる自然の摂理



彼岸が近づくと頃になると、彼岸花が土手のそこかしこから、そっと真っ赤な曼珠沙華の花を開き始めます。

9月に入っても夏のような暑い日々が続いていますが、咲く時期に狂いなく咲き始めるのです。

自然の摂理とは、何とも不可思議です。温暖化による気温や地温の上昇があっても、時期が来ればちゃんと花を咲かせ、季節の移ろいを教えてくれるからです。あたりまえのことかも知れませんが不思議でなりません。

また、花を見る度に、見れば見るほどに、花びらはどんな仕組み、力で生み出されたものか、近代科学や幾何学でもとうてい創り出すこともできない美しさ、形です。

自然の摂理を感じさせられるのは、彼岸花ばかりではありません。様々な所で、はっと気づかされることが多く、只々感心させられたり、驚かされています。(木下)



▶ 咲き始めたヒガンバナ

インフォメーション

10・11・12月

美術博物館 (0265-22-8118)

◆ 展覧会 ◆

・ 中世信濃の名僧

10 / 15 (土) ~ 11 / 23 (水)

・ 現代日本画の表現 — 大森運夫 —
10 / 15 (土) ~ 11 / 23 (水)

・ 作品と出会う5
11 / 27 (日) ~ 12 / 27 (火)

・ 須田剋太の抽象画時代
11 / 27 (日) ~ 1 / 9 (月)

・ 現代日本画の表現 — 滝沢具幸 —
11 / 27 (日) ~ 1 / 9 (月)

・ プラネタリウム ◆
星の流れる森
— ぼのぼのと宮沢賢治の世界 —
12 / 4 (日)

◆ 追手町小学校化石標本室公開日 ◆
10 / 9 (日)・10 (月)、11 / 20 (日)

◆ 講演会・講座 ◆
「禅僧の日中朝交流と信濃」
11 / 19 (土)

「菊慈童話の深層」
10 / 9 (日)

◆ 美博特別講座 ◆
「涅槃図にこめられた心」
10 / 30 (日)

◆ 美博文化講座 ◆
「やさしい仏像の見方1」
11 / 8 (火)

「やさしい仏像の見方2」
12 / 20 (火)

「修験 羽黒山秋の峯」
11 / 27 (日)

◆ 自然講座 ◆
「写真家が見てきた伊那谷」
10 / 6 (木)

「中央構造線のマイロナイト」
10 / 21 (金)

「戸台層の礫岩とアンモナイトが語る中生代東アジアの変動」
11 / 5 (土)

「野鳥のバンディング調査から」
11 / 10 (木)

「長野県のシダ植物を調べる」
12 / 8 (木)

「地震と大地のふるまいII」
12 / 15 (木)

◆ 子ども科学工作教室(要申込) ◆
ソーラーカーを作って
走らせよう
11 / 12 (土)

◆ 子ども美術学校 ◆
子ども美術学校卒業制作展
12 / 13 (火) ~ 12 / 18 (日)

◆ 星空観察会(要申込) ◆
秋の四辺形とアンドロメダ銀河
12 / 3 (土)

◆ 寄贈御礼 ◆
現生ブンブクウニ類ほか 29点
小林伸明氏
ありがとうございました。

◆ 臨時休館 ◆
10 / 12 (水) ~ 14 (金)、11 / 25 (金)・26 (土)

◆ 展覧会 ◆
下伊那唐草文土器
10 / 1 (土) ~ 11 / 20 (日)

◆ 講演会・講座 ◆ ※本文記事参照
◆ 臨時休館 ◆
11 / 22 (火)

考古博物館 (0265-53-3755)